

県内総合

建設情報*Iwate*

庁舎は長寿命化で機能維持

公共施設等個別計画の素案③ 統合計画の保育所も

奥州市

奥州市は、公共施設等総合管理計画・個別施設計画の概要(素案)を提示。今後、市民の意見を踏まえながら、必要な修正をしていく構えで、3月までに最終案に基づき庁内決定・公表する見通しとしている。

素案の段階での個別施設の対応方針のうち、子育て支援施設は、認定こども園の稲瀬わかば園、あゆみ園、前沢北こども園、いずみ保育園、前沢保育所は、長寿命化を図り、継続的なサービスの提供を維持する。田原保育所は、必要最低限の点検・補修を行い施設を維持する。

江刺南保育所は、入所需要が減っているため廃止。佐倉河幼稚園、羽田幼稚園、岩谷堂幼稚園は、入園需要の減少や施設の老朽化のため廃止する。

小山東幼稚園、南都田幼稚園、若柳幼稚園、衣里幼稚園は、入園需要が減っているため廃止する考え。みなみ保育園は、周辺への民間施設の開園の状況に応じて廃止する。玉里保育所、梁川保育所、広瀬保育所は、施設の統合を進める。

各放課後児童クラブ(水沢、みなみ、ときわ、佐倉河、真城、姉妹、羽田、黒石、岩谷堂、江刺愛宕、前沢、古城、胆沢森、南都田)は、必要最低限の維持を行うとともに、小学校の余裕教室の活用を検討する。

奥州市子育て総合支援センターは、長寿命化を図り、継続的なサービスの提供を維持する。前沢子育て支援センター、幼児教室ひまわり(あすか南会館)は、現在利用している建物については必要最低限の維持を行い、老朽化後は他の遊休建物への移転を検討する。

保健・福祉施設は、江刺保健センター、前沢健康管理総合センター、健康増進プラザ悠悠館、衣川保健福祉センターで長寿命化を図り、継続的なサービスの提供を維持。水沢保健センターは、最低限の維持を行い、建物が使用できる間は存続した後、施設の機能を他の建物へ移転する。

まえざわ介護センターは、長寿命化を図り、継続的なサービスの提供を維持。前沢いきいきハウス、

衣川生活支援ハウスは、最低限の維持を行い、建物が使用できる間、存続する。水沢高齢者創作館、江刺高齢者生産活動センター、大岳高齢者生きがいセンター、高齢者総合福祉施設ぬくもりの家、グループホームこすもすは、施設の使用、管理を主体的に行う団体等への移譲を進める。

行政関連施設は、奥州市役所本庁、江刺総合支所、前沢総合支所、胆沢総合支所、衣川総合支所について、長寿命化を図り、継続的な施設の利用を維持する。各消防屯所(全143棟)は、人口分布等に応じた適正な配置に努め、長寿命化とともに必要な施設更新を進めていく。

歴史的建造物は、旧高橋家住宅、旧後藤正治郎家住宅は、国または県指定の文化財であることから、大規模修繕を行い施設を維持する。高野長英旧宅・古稀庵、旧後藤家住宅、後藤新平旧宅、旧岩谷堂共立病院、旧内田家住宅、旧安倍家住宅は、必要な点検・補修を行い施設を維持する。



奥州市役所本庁舎

県の公共事業事前評価実施状況

<4>

県の20年度公共事業事前評価の実施状況は次の通り。路線名等につき①個所名②事業期間③主な事業内容④総事業費(千円)⑤総合評価⑥B/Cの順。

県土整備部
〈地域連携道路整備事業(地域密着型)〉

▽主・一関北上線①長島②21～29年度③道路改築L＝1930m④1,730,000⑤A⑥5.2(修正B/C:8.4)

▽主・遠野住田線①下組町～六日町②21～25年度③道路改築L＝940m④567,000⑤A⑥7.1(修正B/C:11.5)

▽主・二戸五日市線①柿ノ木平②21～30年度③道路改築L＝1880m④2,000,000⑤A⑥0.8(修正B

C:1.3)
▽主・釜石住田線①中埠②21～28年度③道路改築L＝900m④1,550,000⑤A⑥0.6(修正B/C:1.0)
〈道路環境改善事業(交通安全施設整備)〉

▽主・若柳花泉線①一関市涌津②21～25年度③歩道整備L＝570m④423,000⑤B⑥1.0

▽国・340号①九戸村長興寺②21～26年度③歩道整備L＝460m④360,000⑤B⑥1.0

▽主・古館停車場線①紫波町中島②21～28年度③歩道整備L＝210m④155,000⑤B⑥1.0

▽主・盛岡和賀線①花巻市北湯口②21～29年度③歩道整備L＝1404⑤30,000⑤B⑥2.0

▽主・花巻北上線①北上市黒岩

②21～27年度③歩道整備L＝910m④250,000⑤B⑥2.6

▽主・矢巾西安庭線①矢巾町広宮沢②21～24年度③歩道整備L＝140m④50,000⑤B⑥2.1

▽主・清水野村崎野線①北上市村崎野②21～22年度③交差点改良L＝65m④34,000⑤B⑥1.2

▽主・雫石東八幡平線①雫石町長山の2②21～26年度③歩道整備

L＝140m④95,000⑤B⑥1.1
〈道路環境改善事業(防雪・凍雪害防止)〉

▽主・盛岡横手線①西和賀町若畑の2②21～28年度③堆雪帯設置L＝1150m④225,000⑤B⑥2.0

〈道路環境改善事業(無電柱化推進)〉

▽主・矢巾停車場線①矢巾町又兵衛新田②21～30年度③無電柱化

L＝2270m④2,000,000⑤A⑥1.9(つづく)

けんせつ女子大募集!

「スマイル☆けんせつ女子部」に登場していただける方を募集しています。年齢や経験年数などは問いません。詳しくは編集部まで。
→TEL 019-623-8201(代表)

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

活断層の調査ー変動地形調査ー



岩手大学理工学部システム創成工学科教授・地域防災研究センター長

越谷 信

日本には数多くの断層があることが知られている。このうち、活断層とされるものだけでも、2000以上あると言われている。活断層に限らず、地震防災を考えると、地震の予知や予測、つまり、地震の発生する場所、地震の規模および地震発生の時期をあらかじめ把握することを目指すことになる。具体的には、地表における位置、形態および活動区間などの発生場所、断層面の地下形態およびすれの向きと種類などの地震(すれ)の特徴、活断層の長さや1回のすれの量などの地震の規模、および平均的なすれの速度、過去の活動時期および平均活動間隔などの地震の時期や発生確率に関わる情報を把握する必要がある。

これらを明らかにする代表的な調査法には、変動地形判読、トレンチ調査、地質調査、反射法・屈折法物理探査および重力調査がある。変動地形判読やトレンチ調査は活断層により表層部に生じた現象を明らかにしようとし、深さ数百mから場合によっては数十kmの深層部にみられる構造を明らかにするのが反射法・屈折法地震探査や重力調査の目的である。地質調査は地表付近やボーリング資料の情報から、浅部現象の解明や深部情報の解釈を可能にする。

活断層が繰り返し活動した結果、特徴的な地形や地層の変位が蓄積される。陸域での活断層による浅い地震は、マグニチュード7程度を越える場合には地表地震断層を生じ、直接地形に変位を与える。陸域で発生する浅い地震の発生間隔は、1000年またはそれ以上であり、1回の地震による変位はたかだか数mであるが、十万年～数十万年にわたって繰り返し同じ向きにすれ動くことにより、地形に変位が蓄積されていく。このとき、侵食などの変位を消失させる作用より大きいと特徴的な地形が発達する。これらの地形は通常、空中写真や立体斜度図などのアナグリフ画像を用いて判読される。これらの調査結果は、地表での断層位置、連続性やすれの向きなどに重要な情報を与える。

一般に、断層が作る地形には、2種類ある。それらは、断層の変位の蓄積などによる断層活動を直接の原因としてつくられる変動地形(断層変位地形)と、地質時代に活動し、現在はずでに活動を停止した断層が侵食作用によって起伏として現れた地形(断層組織地形)である。活断層を対象としている場合には、両者を区分に十分注意する必要がある。断層変位地形は、崖地形(変動崖)、凹地形(変動凹地)、凸地形(変動凸地)および横ずれ地形に大別さ

れる。崖地形の一つである断層崖は、断層により地表面が切断され、上下方向に変位が生じて形成される(図1参照)。東北地方に多く発達する逆断層では、段丘面などの平坦面を切断またはたわませる崖地形が発達し、規模の割に明瞭であるため、活断層の認定に有効である。

変動凹地や変動凸地には様々な規模のものがある。規模の大きい変動凹地としては、両側を正断層で区切られた東アフリカ地溝帯や両側を逆断層で区切られた京都盆地や奈良盆地がある。また、本州中部から近畿地方にかけての南北方向の木曽、養老、鈴鹿、金剛、比良、比叡などの山脈は両側を逆断層で限られた地塁山地といわれる変動凸地である。地塁や地溝の様子を図2に示す。

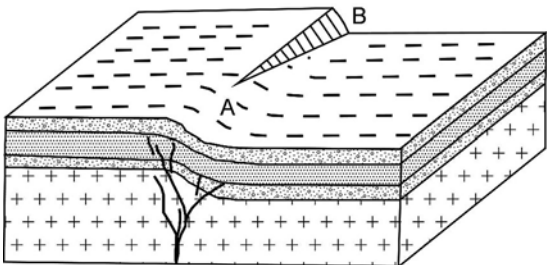


図1 断層崖(A)と横曲れた地塁と地溝(B) (活断層研究会編、1991を基に作成)

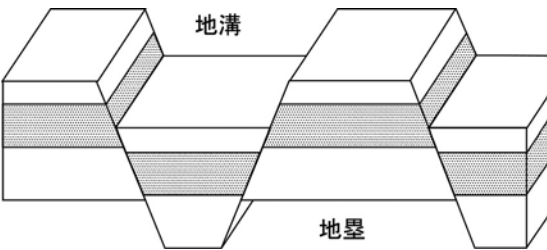


図2 正断層で区切られた地塁と地溝

横ずれ断層地形には、尾根や谷筋が断層線を境に系統的に屈曲した横ずれ尾根や横ずれ谷がある。これらの地形は、中部から西日本にかけて多く発達している。

日本ではこれらの変動地形が各地で認められるので、興味のある方は探してみたいかがであろうか。ただし、崖があるからといって、直ちに活断層があるとは限らない。活断層の認定に当たっては、対象とする地域の地形発達過程を考慮することが重要であることを忘れてならない。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつないだ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場も、これから現場とも、SMART CONSTRUCTION

「スマートコンストラクション」を説明します。
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>

スマートコンストラクション 概要

コマツの試験場で、ある実験が行われた。昨年、1年7ヵ月の若いオペレータに、水溝をイメージした溝の掘削や整地に挑んでもらう。彼らは、二台のICT建設機械を、そして、「スマートコンストラクション」というICTソリューションだ。

ICTリアルデータが土を掘り出した。指示データがすでにインプットされている若いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後に動かすだけでいい。そう、機械がほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、指先や手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインを整えていく。本来なら、ベタコンにしかできない崖状、断層と深溝ではない。

結果は、この通りである。建設現場の常識が、いま大きく変わりはじめていく。

※建設現場の様子を、ぜひこのQRコードからご覧ください。

KOMATSU

コマツ岩手株式会社

盛岡・花北・県南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5
TEL 019-638-1100(代)
<https://komatsu-iwate.jp/>